

種えしまたれぬ

虫かすいたる

夢

の学

夢のかけ

夢のかけ

初代夢胡蝶六十年忌

追善演奏會



命と



題字 小熊日々軌

平成二十九年七月一日(土)

開場 午前十一時

開演 午前十一時三十分

日本橋 三越劇場

初代菊胡蝶六十年忌  
追善演奏會

司会 浜島信子

## ご挨拶

向暑のみぎり、皆様にはご機嫌麗しくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本年は蓼派創立九十周年であるとともに、初代蓼胡蝶の六十年忌を迎えます。初代家元は昭和三十三年七月二日、稽古中に急逝致しました。この度、初代を偲び、追善演奏会を開催する運びとなりました。蓼派の小唄をより多くの方々に楽しんでもいただけますよう、蓼派会会員一同、尚一層の精進を重ねて参ります。最後までごゆっくりとご鑑賞下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

平成二十九年七月一日

蓼派会会長 蓼 胡満佳  
役員一同

## 蓼派初代家元 蓼胡蝶の生涯

明治二年九月十八日 日本橋横山町に誕生

九歳 柳橋栄家の預りとなる

十二歳 小縫の名で半玉となる

十七歳 新橋へ移り、小蝶の名で芸妓となり

新政府の中心的閣僚達の鼻肩を得る

二三歳 新川村の屋号で一本立、この間、

新橋名妓七人衆の一人と謳われる

三七歳 花柳界を引退し、娘を引取り隠居

五五歳 関東大震災の一年後、蓼胡蝶として

稽古所を開き小唄の師匠となる

五九歳 昭和二年 東京府に家元の登録

八十歳 終戦後に小唄ブームが起り、蓼派は

隆盛を極める

八九歳 昭和三三年七月二日朝、新橋の自宅

にて稽古中に数人の門弟の見守る中

三味線を弾きながら永眠した







15	14	13	時頃 12	11	10	9	8	7	6
ほたる茶屋	博多みれん	七話しらけて	又宵の御見	あ二人が仲	与満作思えば月	色折よくも	河庄	ほ四万六千日	うらむぞえり
胡葉音	競代乃	胡満里	鈴緒音	胡満佳世	加津柳	胡 <sup>白河</sup> 文ひろ	胡 <sup>札幌</sup> 政吉	房香代	ちよ房
替史胡 ま葉菊 由菊	競代	胡満佳乃	替胡鈴 鈴緒子	胡満佳乃	替胡鈴 緒子	胡文雄	競雪野	治比奈	胡文雄

16 博多流し

輝光しず

上 胡 鈴  
鈴 子 緒

17 三社祭

佳ほる

胡 満 佳 乃

18 中洲の思い出

鈴 美 緒

上 胡 鈴  
鈴 子 緒

19 江戸祭

葉 留 幾

上 史 津 留 浅 実  
史 津 留 浅 実

20 うず潮

初 野

競 雪 野

21 きぬぎぬの濡れてみたさに

茂 喜 代

茂 和 香

22 一声は月

競 照 文

競 文

23 宵のなぞ

胡 葉 祇

胡 葉 菊

24 河太郎 切れてくんなますな

鈴 子 正

胡 鈴 子

二時頃

25 つゆ深き

胡 葉 助

史 ま 由

26 あがる石段  
富  
毘  
子  
毘  
舟

27 初めて逢った  
つゆの月  
升  
緋  
奈  
津留浅よ

28 獅子頭  
静  
竜  
替胡競  
三  
竜代

29 白魚舟  
舟の船頭衆  
胡  
よ  
若  
史  
実

30 十六夜  
輝  
光  
鈴  
緒

31 紫桔梗  
穂  
乃  
香  
史  
実

32 影ぼうし  
涼しげにし  
房  
ま  
さ  
房  
ま  
さ  
香

33 片系  
胡仙台  
淑  
茂  
和  
香

34 片寝ぐせ  
胡札幌  
政  
清  
競  
雪  
野

三時頃  
賛助出演

35 川水  
胡府川富江こと  
葉  
和  
替胡胡  
葉伊  
助葉

36 さつまさ  
はりこの虎

高岡 橋詰みね子こと  
胡 満 音

満 葉

37 影 絵

山鹿輝夫こと  
胡 よ 輝

津 留 浅 よ

38 着せる羽織  
君は今頃

郡山 京子こと  
胡 志 枝

胡 文 雄

39 浦漕ぐ舟

吉川龍男こと  
胡 満 和 介

胡 満 千 加

40 勝名のり

橋本喬こと  
朋 伯 士

胡 文 雄

41 青柳の糸より  
ほどほどに

小松忠夫こと  
津 満 松

上 史 胡 文 雄  
ま 由

42 ひと声を  
昔は昔

小坂敬こと  
佳 敬

胡 茂

43 舟の船頭衆  
祭り

井上藤夫こと  
信 佳

胡 満 佳

44 中洲の雨  
人知れず

坂本勲夫こと  
胡 満 勲

胡 満 千 加

45 浜町河岸

柏谷秀男こと  
葉 留 助

替 史 胡 実 宏



46 夕立の  
きやらの香り

胡満利

胡満千加

47 こぼれ露  
中洲の秋

競三

替競雪野  
代

48 つれなくされし  
小諸出てみよ

高岡  
満葉

胡満千加

49 箕輪心中

胡一舟

上  
毘競舟代

50 やくのは野暮  
どうぞ叶えて

津留染

茂和香

51 すれちがい  
氣前が良うて男まえ

房邦

治比奈

52 空ほの暗き  
二人一緒に

胡競靜

競文

53 いつしかに  
これほど止めるのに

延は留

胡宏

54 定九郎  
からくり

房多恵

治比奈

55 編笠

胡薙

胡宏



56 走馬灯 福温 競雪野

57 お佃 互ばやし 津留紫乃 史実

58 夏景色 津留稚加 ツレ史胡 文雄

初代蓼胡蝶作品集

59 染めあげて 蝶弥 胡里

60 今宵妻 胡菜三 競雪野

61 三日月の頃より 胡満桜 胡満千加

62 今さらには 胡伊葉 胡文雄

63 粹なお方 胡茂 史ま由

64 置炬燵 胡治 競雪野



65 白

菊

津

留

葉

胡

宏

66 念がとどいて

胡

満

佳

胡

満

千加

手

ノ

終演六時予定

〒180-0021

武蔵野市桜堤一―一―三―三〇二

武藤方

蓼派会事務局

蓼 蝶 弥

電話 〇四二二(五三)三二二三

E-mail : info@tadeha.jp

URL http://www.tadeha.jp/